

# 「境小学校の境棒踊り伝承の取組」

## 1 学校名

垂水市立境小学校

## 2 学年・人数

全児童（今年度は22人） ※教職員（今年度は7人参加予定）

## 3 日時・場所

### （1）練習の日時・場所

創意の有る学習の時間として、年1時間伝承活動を実施。

※放課後を利用し、年7～8時間の活動を実施。

### （2）発表の日時・場所

例年校区・小学校合同運動会等で披露する他、毎年3月（旧暦2月）に老神神社で行われる二月祭りの際奉納。

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

### （1）名称

境棒踊り（さかいぼうおどり）

### （2）由来

棒踊りは、関ヶ原の合戦に敗れた島津義弘が、意気消沈した郷土の士気を鼓舞するため、武芸の技を踊りに加えたものと伝えられる。

江戸時代になり、元禄を過ぎると、世の中は平和になり、棒踊りも武士の踊りから農民の田植踊りへと変化していった。国分隼人の鹿児島神宮のお田植え祭りに奉納されるようになって、広く県下で踊られるようになったという。

境の棒踊りは、土地の古老によると「百年以上前に百引から伝わった」とされる。

### （3）構成等

境棒踊りは3人1組で編成される。3人がそれぞれ3尺棒、6尺棒と鎌を使用し、踊る。3尺棒と6尺棒を打ち合わせ、その間で鎌を振るという形態である。場所を入れ替わって切り合ったり守ったり、大きく動く勇壮な踊りである。衣装は青い法被に白い鉢巻き、背中に色鮮やかなたすきを結ぶ。

## 5 保存会や地域との連携の具体

保存会が踊りの所作、衣裳の着付け等について指導する。披露の際は、児童と教職員、保存会の他に保護者が一緒になって踊る他、公民館が道具等の保管等、活動をサポートする。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝承の時間確保が最大の課題である。境小学校では年間を通じて1時間しか活動時間が確保できないため、放課後を利用し伝承活動を実施した。児童と教職員だけでなく、保存会や保護者も一緒になって伝承活動を実施するため、少ない時間を効率的に活用した。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 踊りだけでなく、地域の人に昔の話や歴史を教えてもらえるのも楽しい。これからもできるだけ参加したい（児童）。
- 大きな産業がなく平地も少ない地区で、学校を卒業すると子どもたちの多くが外に出ていく。だが、体で覚えたふるさとの記憶は心にずっと残るのでは（保存会）。
- 昔から続く行事。これ（二月祭りでの奉納）がないと春がこないし、何より子どもたちを見ると元気になる（地域民）。
- 棒踊りは地域と学校、世代を結んでくれる大切な絆。出来る限り引き継いでいきたい（地区公民館長）